

彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちよりの収集を全部やる、と言った。しかし、彼は、「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。そのうえ、今日また、君がちよりをどんなに取り扱っているか、ということを見るのができたさ。」と言った。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまう、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼は罵りさえしなかった。ただ僕を眺めて、軽蔑していた。そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを知った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「どこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だった。だが、その前に、僕は、そつと食堂に行つて、大きなとび色の厚紙の箱を取つてき、それを寝台の上のせ、闇の中で開いた。そして、ちよりを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまつた。

① 「僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。」とあるが、「僕」がこれほど怒りを感じたのはなぜか。もつとも適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア 「僕」を犯人だと最初から決めつけたから。
- イ 「僕」のおもちゃの収集をばかにしたから。
- ウ 「僕」ちよりへの思いまで否定したから。
- エ 「僕」の犯した罪を激しく非難したから。

② 「母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれた」とあるが、このときの「母」の心情を一つ選びなさい。

- ア 深く傷ついている「僕」をそつとしておいてあげようという、息子を優しく思いやる気持ち。
- イ 「僕」がエーミールにきちんと話せなかったのではと疑い、告白するのを静かに思いやる気持ち。
- ウ 「僕」が盗みを犯したことを許すことができず、息子を冷たく突き放そうとする気持ち。
- エ 自分の行いを後悔して落ち込んでいる息子に、どのように話しかけたらよいか迷う気持ち。

③ 次の「話合ひの様子」は青山さんたちが、「ちよりを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまつた。」場面に ついて、話し合つてゐるところです。次の会話文A・Bに入る言葉をそれぞれ五字で、Cに入る言葉を八字以内で考へて書きなさい。

川口さん エーミールの貴重なちよりをつぶしてしまつたことへの（A）から、自分を罰するためにやつたんだと思う。
山田さん 謝つて償いをしたいと言つていたのに、なぜそこまでするのかな。
青山さん 一度起きたことは償いができないという（B）気持ちから、自分のちよりも同様につぶしたんじゃないかな。さらに、自分の中のちよりへの思いも（C）としたのかもしれないね。

④ 「僕」がクジャクヤママユをつぶしたことを打ち明けたとき、エーミールは「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言つているが、「僕」のことをどんなやつだと思つているのか。また、エーミールのことをあなたは どう思うかを次の条件に従つて、百字以上、百四十字以内で書きなさい。

- ① 二段落構成とし、一段落目にはエーミールは「僕」のことをどんなやつだと思つているかを書くこと。
- ② ①の根拠として、エーミールが出来事をどう捉えているかを明らかにして書くこと。
- ③ 二段目にはエーミールのことを自分はどう思うかを書くこと。
- ④ 言葉の間違ひや、主語と述語のつながりなどに気を付け、文末は常体に統一して書くこと。

三 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

①想像力というものは、**狡知の源泉**ではあるが、**優しさの温床**でもある。狡知の源泉であるというのには、相手がこれからとる行動を読んで先手を打つには相手の心の内を先に読む、つまりは想像する必要があるからだ。優しさというのには、相手のいまの気持ちにこまやかに想いをさせる、気を配ることができるといふことだからだ。

②そういう想像の力を育むのに、なにも芸術的感受性のトレーニングといった特別な算段は必要ない。むかしのひとはそんな教育プログラムをわざわざしつらえるよゆうもなかった。けれども、生活の最低のプログラムのなかに想像力を育むチャンスというのをきっちり設定していた。

③食事中である。いまはいそがしい子どもにも合わせて、その合い間に効率よく食事をするようセットするのがまるで優秀なママのわざのようになつていっているが、むかしのお母さんはただ食事時にきちんと家に帰つてくることだけをきつかく命じた。家族のみなどいっしょに食べないものなら、こつぱどくしかられた。

④約束を守るといふ、ひとのあいだで生きるための最低限のルールを教えるといふこともあつただろう。が、それ以上に食事をいっしょにとるといふことじたいを重視していたのは、きつと、そのことに、他人の見えない心持ちに想いをさせるという、想像力のもつとも基本的なはたらきを、あるいは日常的にくりかえされるあたりまえの行為のなかで教えるという意味を、みいだしていたからであろう。目の前にひろがる光景や、あたりを包む音、あたりに漂う香りとかと違つて、味覚というのには他人と共有しにくい。同じ物を食べているのに、それがほかのメンバーにはどんな味がしているのか、じかに確認できないのだ。だから母親は同じレシピで毎週のように作るカレーライスですら、そのつど子どもに「どう、おいしい」と尋ねる。同じように、家族で食事をとるときには、「ちよつと、辛い」「わたしも・・・」とい

つたぐあいには、それぞれが他人がじかに感じられない味覚を報告し合ふ。そういうなかで、他人への想像力といふのが磨かれるのだ。

⑤そういうことをむかしのひとはよく心得ていたからこそ、食事をいっしょにするといふことを大切にしていたのだらう。

①「想像力」といふものは、**狡知の源泉**ではあるが、**優しさの温床**でもある」とあるが、筆者は「想像力」の基本的なはたらきをどのようになことだと述べているか。第④段落から十七字で書きぬきなさい。

②「想像力」とは具体的にはどういふことか。最も適当な物を、次から一つ選びなさい。

ア 相手の心を正しく読むことで、自分をずるがしこく印象づけることも、優しく印象づけることも可能になるといふこと

イ ずるがしこく考えを巡らせる場合も相手に優しくする場合も、相手の気持ちを想像し過ぎてしまうと、ずるがしこくふるまうべきか優しくふるまうべきか迷つてしまうといふこと

エ 想像力は先手を打つてずるがしこく考えている場合にも有用だが、相手に思いやりを示すためにこそ使うべきだといふこと

③ 第③段落と第④段落の関係についての説明として、最も適当なものを次から一つ選びなさい。

ア 第③段落で述べたことに対して、第④段落で事実を挙げて反対の考えを述べている。

イ 第③段落で述べたことに対して、第④段落で話題を変えて別の事柄を提示している。

ウ 第③段落で述べたことに対して、第④段落で例を挙げて理由を説明しようとしている。

エ 第③段落で述べたことに対して、第④段落で異なる立場から疑問を投げかけている。

④ むかしのひとは、「食事」をいっしょにするといふことを大切にしたのは、どういふことを心得ていたからですか。筆者の考えを「想像力」といふ言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

四 次の傍線部を漢字に直して書きなさい。送り仮名が必要なものはそれも書きなさい。

① 成功をねたむ。 ② 罪をおかす。

③ 作家のずいひつを読む。 ④ おんぶの記号。

五 次の傍線部の漢字の読みを答えなさい。

① 羨ましく思う。 ② 喫茶店へ寄る。

③ 中学校の教諭。 ④ 惜別の情。

六 次の傍線部で使われている、表現技法の名をあとから選んで記号で書きなさい。

① 鳥がさえずり、春を知らせる。

② 幼い妹は、家族をなごませるわが家の天使だ。

③ 古池や蛙飛びこむ水のおと

④ 青空に浮かんでいる、真つ白な雲が。

⑤ 青空にまるで羊のような雲が浮かんでいる。

ア 体言止め イ 倒置 ウ 反復 エ 対句
オ 省略 カ 直喩 キ 隠喩 ク 擬人法

七 次の文は、漢字の成り立ちを説明したものである。当てはまるものを、あとから選んで記号で書きなさい。

① 抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表したものの。

② 物の形をかたどって、その物を表したものの。

③ 二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を表したものの。

④ 二字を組み合わせ、一方で音、他方で意味を表したものの。

ア 象形 イ 指示 ウ 会意 エ 形声

八 次の文中の傍線部の品詞を、あとから選んで記号で書きなさい。

① 彼の接客は、とてもいいねいだ。

② 私は和食が好きです。

③ 小さい犬がキャンキャンほえる。

④ あの男の子は僕の弟だ。

⑤ まあ、なんと美しい花だろう。

⑥ さて、この後は何をしようか。

⑦ 月日がたつのが早い。

⑧ 小さい犬がキャンキャンほえる。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞
オ 副詞 カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞
ケ 助詞 コ 助動詞

一年	組	番	氏名	解答
----	---	---	----	----

- 一 各3点
- 二 ①・②各3点 ③各4点 ④条件毎に3点 合計12点
- 三 ②・③各3点 ①・④各4点
- 四、七 各2点

思考・判断 ・表現	知識・技能
--------------	-------

一	①	ウ	②	エ	
二	①	ウ	②	ア	
	③	A	例： 罪 悪 感	B	
	④	C	例： 断 ち 切 ろ う	例： つ ら い	
	④	<p>例： エイミールにとって大事な物を盗まれ、つぶされたのだからエイミールは「僕」のことを最低で「集家失格なやつだと思っただろう。私には、エイミールが「僕」のことを軽蔑するのはひどいと思う。「僕」は謝ろうとしているのに、軽蔑するのはやりすぎだ。</p> <p>①一まず下げていない、二段落構成になっていない ②エイミールの立場から見た出来事が書かれていない ③エイミールのことを自分はどう思うか書かれていない ④字の間違い。常体「だ・で」でない ⑤100字未満</p>			100
	①	他 人 に 見 え な い 心 持 ち に 想 い を は せ る	②	イ	
	④	他 人 が じ か に 感 じ ら れ な い 味 覚 を 報 告 し あ う	③	ウ	
		な か で 、 他 人 へ の 想 像 力 が 磨 か れ る こ と 。			
	①	妬む	②	犯す	
	①	うらや(ましく)	③	随筆	
	①	ク	④	音符	
	①	イ	⑤	カ	
	①	エ			
⑤	⑥	キ			
	⑦	イ			
	⑧	ア			